

## リーディングプログラム 合同研修

グリーンアジア国際リーダー教育センター助教  
三木 一

9月8日から11日にかけて、同志社大学(グローバルリソースマネジメント)、広島大学(たおやかで平和な共生社会創生プログラム)と連携して三大学リーディング合同研修が行われた。学生の参加者は各大学約10名(GAからは9名)、教職員多数が参加した。本合同研修は同志社大学の呼びかけにより、本年度は地熱を主テーマに別府と福岡にて行われた。研修内容は地熱施設の見学および各大学教員、会社、JICA職員によるエネルギー、環境、国際社会についての講義、学生プレゼンとされた。

まず別府にあるアジア太平洋大学にて各大学が集合し、キックオフミーティング、プログラム紹介が行われた。この場で異なる大学の学生からなるグループに分け、最終日学生プレゼンテーションの課題が発表された。同志社大学リーディングコーディネータ和田教授の大変分かりやすいエネルギーに関する講義の後、別府杉乃井ホテル地熱発電所、京都大学地熱研究施設見学を見学した。これら興味のある場所の見学に加え、道中十文字原展望台など展望の素晴らしい場所での野外講義もあり、夜の食事の際には学生同士が完全に打ち解けており、本研修の成功が確信された。2日目は八丁原地熱発電所にて日本最大の地熱発電所見学を行い、その背景および持続可能性について説明を受けた。規模や毎年200億円分の化石燃料を節約しているということが学生の印象に残ったようだった。その後福岡に戻り、九州大学西新プラザにて九州大学西島潤助教より地熱発電に関する講義、広島大学教員よりネパール農村に関する講義が行われた。3日目は地熱開発で評価の高い西日本技術開発株式会社の会議室にて、丸一日講義が行われた。内容は、アフリカに関する講義、国際開発に関する講義、地熱発電に関する講義、九州大学笹木圭子教授による環境材料に関する講義である。アフリカ、国際開発に関する講義は、この分野で長くまた成果を残しておられる同志社大学の2名の

教員より、またJICAの職員からのものである。地熱発電に関する講義は、本分野では権威である西日本技術開発株式会社池田直継様により行われた。産学官の協力により大変高いレベルの興味深い講義がなされた。最終日は午後から学生のプレゼンが行われるため、これまでの研修後の夜から最終日の午前中を利用し学生のグループは真剣にプレゼンの準備を行った。文部科学省職員による挨拶、激励のプレゼンの後、学生のグループは各60分間のプレゼンテーションを行った。3グループの学生はそれぞれケニア、インドネシア、フィリピンにおける地熱発電の現状と展望についてプレゼンを行ったが、専門分野の基調講演と比較しても遜色ないもので、産学官各参加者からも高く評価された。学生は大変過密なスケジュールの中、毎夜遅くまでディスカッションを行い、また各種見学や講義にも積極的に参加し、研修先や参加教員からの評価も高かった。また異なる大学と専攻からなるグループにおいても問題なく研修は行われ、最終日のプレゼンは非常にレベルが高かった。チームワークの大切さ、学生の可能性の高さが伺え、また、大きな目標に対する共同での問題解決能力が培われた事例として、参考にするべきだと思われる。3つのリーディングプログラムによる研修と言うのは例が少なく、外部からの評価も高かったことから、今後も是非続けていくべきだと思われる。最後になりましたが、多方面からご協力いただきました西島潤先生、講義をご担当いただきました笹木圭子先生、学生プレゼンテーションにご参加いただきました谷本潤先生方に深く感謝いたします。また本研修を企画されシンポジウムにもご参加いただきました同志社大学の上田光明先生に深く感謝いたします。またこのたび本件を承認いただき、ご援助をいただきましたGAに対して、また各種業務を受け持っていたいただいた事務の方々に対して、この場で深くお礼申し上げます。

